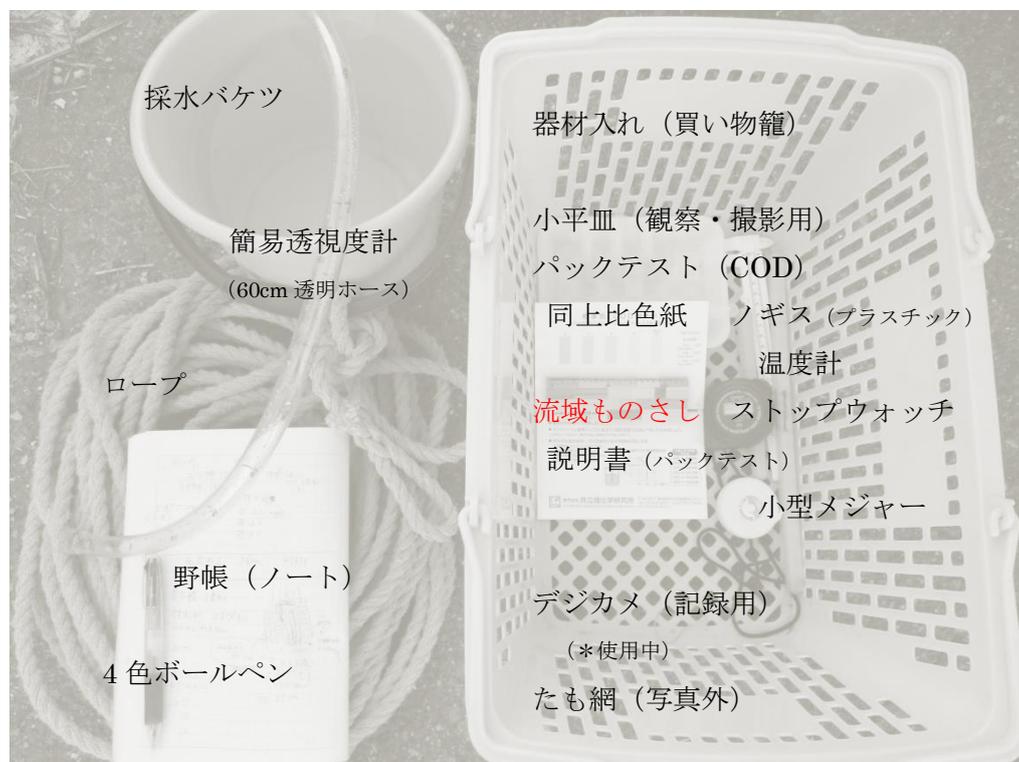


流域ものさし使用事例

身近な水環境の全国一斉調査（矢作川水系）2017.6
調査キット・器材（一式）



(注) 野帳に調査データ・観察記事を記入し、後で一斉調査票（項目欄）に清書する。

調査データ：研究年報水は生きている、全国水環境マップ実行委員会 <http://www.japan-mizumap.org/>
矢作川水系環境マップ <http://www.yakanken.jp/yahagigawa/mijika/>

納涼 「流域ものさし」で 山・川・海 をはかる 事始め



段戸川上流・段戸裏谷原生林の沢 アブラハヤ 2017.6



三河湾・前浜干潟 ハマグリ、シオフキ 2017.7



矢作古川の汀線 中礫、ヤマトシジミ殻、フトヘナタリ殻、アマモ枯片



矢作古川 (同上) ヤマトシジミ (交雑種混じり) 2017.7

(川部会 矢環研 野田)



写真1 今夏の造成干潟：GWの観察



写真2 造成干潟には今夏も底生生物が多種生息するが、生きたアサリは稚貝だけであった。中央の上はガザミで下はナマコ。



写真3 ハマグリはよく成長している。



写真4 二枚貝はサルボウ除き稚貝（アサリ、バカガイ、カガミガイ、マテガイ）が多い。左下はヤドカリ、右下は礫付イソギンチャク

<参考>



写真5 昨年GWの観察 2016.4.27



写真6 同左、多くの成貝アサリ・バカガイ、海藻等
(野田 2017.8.23)